日本協会だより

5月度　常務理事会

日　時　平成6年5月14日10時35分～16時45分
場　所　岸記念体育館505会議室
出　席　中澤専務理事、常務理事9名

一、第14回世界選手権大会東アジア地区予選
5月4日～8日、広島市で開催、無事終了。アジア地区二次予選についてAHF金副会長より9月上旬に開催される西アジア地区予選を待って、9月下旬に韓国で開催の提案あり。今後、関係各国と調整。

二、アジア大会について
ハンドボール競技のエントリー（5月8日現在）は男子5ケ国（日本、韓国、中国、クウェート、サウジアラビヤ）、女子5ケ国（日本、韓国、中国、カザフスタン、トルクメニスタン）。
次回の日本協会と広島との打ち合わせは6月下旬以降、東京で開催する。

三、オリンピックソリダリティーについて
日本協会主催の歓迎会を6月27日または28日に開催することを検討。

四、中国ハンドボールデーへの参加について
ワールドハンドボールデーの行事であり、出来る限り参加する方向で検討。男子については広島選抜が参加検討中。

五、本年度国際大会開催について
◎女子
7月26日（栃　木）　全日本ースパルタカス（ハンガリー）
◎男子
8月21日（名古屋）　全日本ーフアルドビインタートルー（スイス）
8月23日（神　戸）　全日本ーフアルドビインタートルー（スイス）
8月24日（大　阪）　全日本ーフアルドビインタートルー（スイス）

六、オーナー会議について
4月21日開催のオーナー会議で提案された『球界活性化のための選手強化事業に対する財源確保』について、各オーナーにより一層のご理解を戴くため、全常務理事が分担して訪問、ご説明することとした。

七、2000年に向けての展望
国体参加資格、社会人大会、ゴールデンリーグ、全日本総合の在り方等を含めた将来展望について小グループで検討に着手する。専務理事、木野、大西常務理事がこれに当たることとした。

八、報償金について
前回の評議員会で提案のあった報償金については近畿協会を中心とした世話人により次回評議員会の前に「報償金について検討する会」を開催する旨報告あり。

九、97世界選手権大会招致活動について
4月26日～30日、スイス・ローザンヌで開催されたIHF評議会に対し、熊本県・市、日本協会合計27人が出向き招致活動を行った。
28日には日本協会代表とIHF専務理事、事務局長、財務局長でプロポーザルの詳細について打ち合わせを行った。大筋についてはほぼ了解点に達したが、詳細については更に詰める必要がある。
試合数は12位までの順位決定を含め88試合となる。

湧永製薬株式会社　会長　湧永儀助氏ご逝去



湧永製薬ハンドボール部の創立者であり、育ての親である湧永儀助氏が、去る6月12日9時15分、急性心不全で急逝されました。享年56才。関西学院大学1935年卒。
同氏は湧永製薬チームを球界のトップチームに育て上げられた他、全日本実業団ハンドボール連盟の副会長を始め多くの要職につかれハンドボール界発展のために御尽力戴きました。
ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成6年度オリンピック有望選手に3選手が認定
「おめでとうございます」

第2回ジュニアオリンピックカップ（3月26、27日）、大阪で開催した大会において優秀な成績を収め、かつ将来性のある選手の中からオリンピック有望選手候補として財団法人日本オリンピック委員会へ推薦したジュニア3選手について、このたび平成6年度オリンピック有望選手として認定されました。

前田　誠一（15才）北海道室蘭市立本室蘭中学校
町出　智也（14才）北海道函館市立凌雲中学校
前田　美穂（14才）熊本県本渡市立佐伊津中学校

※㈶日本オリンピック委員会主催による有望選手特別研修会が6月23日㈭9時より新高輪プリンスホテルで開催されました。

第14回男子世界選手権大会東アジア地区予選報告

短期間での準備・運営と問題点

広島県実行委員長
山下　泉

94年5月4日から5月8日まで呉市日新製鋼体育館と広島市東区スポーツセンターで開催された。アイスランドで95年5月に行われる世界選手権のアジア地区の出場権は3ケ国であり、この東アジアの予選で優勝すれば出場権を獲得出来、2位の場合は西アジアの2位チームと3番目の権利を賭けて9月中に対戦することが決定している。

当初5ケ国の参加が予定されていたが、中華台北、カザフスタンは棄権し、結局、日本、韓国、中国の3強の戦いとなった。日本としては97年の第15回世界選手権の熊本開催実現を目指して招致委員会を発足し活動している状況であり、蒲生監督率いる新生全日本は必勝を期しての戦いが焦点であった。しかし結果は韓国の優勝に終り、またも韓国の高い壁は破れず、西アジアとの決戦で3番目の出場権を争うことになった。試合内容については強化担当が記事を載せると思いますが、今年10月の広島アジア大会やアトランタのオリンピックを目指しての強化に不安を残した試合振りであり、特にゲームリーダーの不在、若手の伸び悩みが目立った。

この大会の開催はアジアの政治的、財政的な事情で急遽、日本開催を要請された。日本協会は東京、大阪、名古屋の大都市に打診致しましたが5月の連休で体育館の手配や短期間の準備、そして資金の確保等、いろいろと困難な問題が多く不可能となった。結局、91年のアジア選手権大会での成功の経験を有し、アジア大会に向けて全日本男子の合宿を予定し体育館も確保していた広島でお世話することが決定した。3月に入ってからの準備であったが広島アジア大会実行委員会のスタッフがそのまま担当することとした。運営については何ら懸念されることはないが、大会開催に必要な資金の確保が出来るか心配であった。

ご承知のように、広島アジア大会そのものが5月現在、17億円の資金不足であり、県内企業の殆どに協賛のお願いをした後でもあり、もうこれ以上は無理だという環境での資金集めだった。おかげさまで日新製鋼、湧永製薬、イズミをはじめ日本リーグ企業のご協賛を得、地元企業のキリンビール、カルビー、モルテン、フジタ、三菱重工業等の大口のご協力や実行委員の皆様の活躍で目標額を調達することが出来た。紙上をお借りし、厚く御礼申し上げます。

日新製鋼体育館での初日の試合は、槙島会長の陣頭指揮により呉市協会及び日新製鋼の社員のご協

7月度　行事予定

●大会

7/30～8/1	第7回全国小学生大会	京都・田辺町
7/31～8/6	第47回全日本高校選手権大会	富山・氷見市

●ナショナル活動

7/26	女子A対スパルタカス(ハンガリー)	栃木市総合体育館
7/27	同	日立栃木体育館
6/15～7/31	女子A　強化合宿	日立栃木
7/6 ～8	女子J　強化合宿	日立栃木
7/9 ～13	女子J　韓国遠征	
6/28～7/16	男子A　強化合宿	名古屋・大同
7/11～15	世界学生出場候補選手強化合宿	名古屋・大同

●会議

7/2	7月度常務理事会
7/23	7月度第2回常務理事会

CONTENTS



会場となった東区スポーツセンター

力により無事開催出来ました。初の国際試合にも拘らず、運営面も完全で問題なく盛況であった。

東区SCで行われた2日目と最終日は広島市の皆様が中心に運営した。91年の18チームの大会経験は非常に貴重なもので、自信にあふれた運営を行うことが出来た。

最終日にはご多忙の中、斎藤英四郎会長が来広され、日本対韓国の決勝を観戦され、表彰式に出席されました。お陰様で大会を盛り上げることが出来ました。この決勝戦はNHK総合テレビで実況中継された。日曜日の午後1時から2時間のゴールデンタイムでの放映であり、各方面での反響は相当なものだった。平素ご指導を賜っているNHKの杉山氏をはじめ、広島放送局のスタッフの皆様に感謝の気持ちで一杯です。

このテレビ放映はハンドボールの魅力を十分に引き出したものであった。視聴側にとって、考えたカメラアングル、特にゴールネット裏でのシュートのスピード、テクニック、ゴールキーパーの動きなどエキサイティングな面がスロービデオで再現され、判りやすい解説に併せて、スリルと面白さを存分に満喫出来るものであった。

困ったこともあった。AHF(アジアハンドボール連盟)の見解が不統一である。クウェートにあるAHF本部の事務局長アブ・アル・レイル氏とパキスタン在住の専務理事アグール・ハッサン氏との意見の違いにより混乱することが多く、費用的にも無駄をする結果が生じた。例えば3試合なのに、IHFからの派遣レフェリーのスロベニアのペアとAHF推薦のクウェートとバーレーンの2ペアの3ペアも招待するという不経済さ。1ペアが1試合しか担当出来ない結果となった。参加チームの帯同審判で十分なところを開催国に負担増を招いている。



斎藤会長からトロフィーを受ける韓国チーム

この大会で考えられることは、AHFが東と西アジアに分割して予選をすること、そしてCISの国を東に加えたことである。アジアのオリンピックの出場枠が二つ与えられる可能性があることを考えると西アジア主導型の準備体制であり、東には韓国という強豪がいる以上、日本の立場を考慮すると今後はアジア全体で予選会を開くよう要請すべきであろう。

もう一つのことは、審判のことである。北京2回、バーレーンのアジアの大会と広島での2回の国際大会を見て感じることは日本の審判の強化が急務であるということである。英語、ドイツ語が話せる国際感覚を有し、交渉力がなければ優位に立てない時代となっている。世界選手権開催をするためにもヨーロッパに留学されるなど対策が必要である。全日本チームの強化にもつながることである。

次は10月2日からの広島アジア大会に向けて休む暇もなく準備に入ります。全国のハンドボールファンの皆様、是非全日本の応援をお願い致します。宿泊等のご希望があればお早目に広島県協会へお申込み下さい。

最後に大会開催にあたり、広島県、広島市、呉市、広島アジア大会組織委員会、日本協会そしてNHKをはじめマスコミ各社、またご協賛を賜りました各企業に対して厚く御礼申し上げます。

第14回男子世界選手権大会東アジア地区予選報告

課題を掌握して次へつなげ

井　薫

1995年5月にアイスランドで開催される第14回男子世界選手権大会の東アジア地区予選は5月5日から8日まで、広島市及び呉市で行われました。

大会直前にカザフスタンの参加取り止めの混乱はありましたが、日本、韓国、中国での代表権を賭けての戦いは、10月のアジア大会、さらに明年のアトランタ・オリンピックのアジア予選を占う意味で、大変注目が集まるなかで展開されました。

日本、韓国共に対中国戦は、戦力、戦術温存ながらも、日本が8点差、韓国が15点差でクリア。8日、広島市東区スポーツセンターで日本対韓国戦がスローオフ。

私は昨年9月、バーレーンでの第7回アジア男子選手権大会に団長として参加（1位韓国、2位クウェート、3位日本）、大会の反省として次の3点を課題として現場に伝え、今回もこの点をベースに7ケ月ぶりの男子の国際ゲームを観戦しました。

①基本的ミスの排除（基本技の徹底反復練習）
②ゲームメーカーとしてのベテランの復帰
③攻防スイッチの固定化の是非

日本対韓国

立ち上がり韓国は⑮イの45度のフェイントが2回、オーバーステップとなるが、1・2・3のディフェンスラインの日本に警戒感を与える。

日本は下がりぎみの韓国ディフェンスに⑥末岡のステップ、②田中の速攻、⑰首藤と得点。韓国は長身サウスポー、⑩チョ、⑬ユンの打点の高いシュートで応酬。日本ディフェンスは意欲的で韓国も戸惑う場面も多く、13分まで互角の攻防で4－4。

15分、⑦田中が攻防スイッチからのトリックプレイでカットし速攻で得点、5－4とリード。テレビの解説もトリッキーなプレイと評価していましたが、私はトリッキーなプレイとは確かな基本技に支えられた技術から生まれるものと思っていますので、ゲームの流れのなかで、この得点の反動を危惧（3月のチャレンジマッチでも、同選手の同プレイでリードされていたゲームの反撃のきっかけにしましたが、ナショナルが格下相手に行うプレイとしてはどうなのか、もっと圧倒的な力のプレイを期待する声もあった）しましたが、このあたりから韓国の多彩な攻撃が始まり、皮肉なきっかけになりました。

逆に日本は単調なシュートが多くなり、それも早いテンポのシュートのため、次第に好調だったディフェンスのリズムが乱れて、退場も出始め前半11－9の韓国リード。

後半、韓国⑦イがステップシュートを連発（⑦イは中国戦で大活躍したが、このゲームでは後半に効果的に出場）、韓国ベンチのゆとりか。

日本は追い上げの場面で、懸念したミスが出て次第にリードを許し、25－17で終了。メンバーチェンジも交替するプレイヤーが、局面の状況を正確に理解しているのか、またゲームのなかで、全体の展開に影響を持つスタートの10分に、戦略的指示が適切であるのか。少なくともこのゲームを決定付けたのは、早い段階でのイージーなシュートの連発にあった訳で、意図的、戦略的な部分でベンチワークとしての強い指導力を期待したい。

私は先に、ナショナルチームとは国内の総力を網羅出来ることが不可欠と、方向性を示していますが、それは怪我による戦列離脱が最小限であることも意味し、その点での蒲生監督やスタッフの悩みについては理解をしたいと思います。

ただ、規模は違っても総ての指導者の悩みも同様であり、許される戦力でいかに結果をだすのか、指導者の真価はその一点につきる訳で、敗戦の悔しさ、課題を充分掌握してアジア大会及びそれ以降につないで貰いたいものです。

最後になりましたが、今回もまた広島県協会の皆様には大変お世話になりました。大会の運営はもとより、世界のメンバーに対する確かなホスピタリティに感謝の気持ちでいっぱいです。10月のアジア大会で男女ナショナルの好成績こそが、広島の皆様のお気持ちに応えうる唯一のことの自覚を蒲生男子、緒方女子監督と共に認識したいと思います。

広島アジア大会に向かって

アジア競技大会施設専門委員　山本　一



広島アジア競技大会まで５月24日で残り１３１日となりました。

大会は10月２日開会式、10月16日閉会式で、各競技一部を除いて10月３日より行われ、34競技３３７種が広島県を中心に行われます。

ハンドボール競技は、今や広島におけるハンドボールのメッカとなった広島市東区井田新町の東区スポーツセンターで行われます。

１９９１年に広島で行われたバルセロナオリンピック・アジア地区予選を兼ねたアジア選手権大会では男子は特別参加のオーストラリアを含め12ケ国１地区の13チーム、女子は４ケ国１地区の５チームの参加があり、広島アジア大会の参加チームも当初同数またはそれ以上のチームの参加が予想されました。それ以上と予想しましたのも、旧ソ連の５ケ国がアジア地域に編入されたからです。

広島アジア競技大会組織委員会は、当初から全体役員選手団の枠を７３００人以内とするという方針のもと、ハンドボール競技はこれまでのソウル、北京の両アジア大会の参加国数等を参考に、また先のアジア選手権等において各国へのヒヤリング等を考慮し、男子９チーム、女子５チームの案が出されました。アジア大会は、予選もなく、各国ＮＯＣの申込みに全てを委ねているため、なかなか実数が把握出来ず、大会の準備にも力が入らないのが実態でした。

昨年12月に大会組織委員会が行ったチーム競技の参加事前調査では、男子は中国、北朝鮮、日本、韓国、クウェート、カタール、サウジアラビア、ウズベキスタンの８ケ国、女子は中国、北朝鮮、日本、韓国、トルクメニスタンの５ケ国でした。

さらに今年の５月５日を期限とするチーム競技の最終締め切りともいうべき「チーム競技の数のエントリー」の結果は、国際情勢の変化もあり、男子は中国、日本、韓国、クウェート、サウジアラビアの５ケ国、女子も中国、日本、カザフスタン、韓国、トルクメニスタンの５ケ国となっています。

現在アジアハンドボール連盟（ＡＨＦ）を通じて、組織委員会に入った情報では女子のキルギスタンが参加を希望しているとのことです。現在、キルギスタンのＮＯＣに確認をしています。

現在のエントリーの状況を考えますと、アジアオリンピック委員会（ＯＣＡ）の会長でもあり、ＡＨＦの会長でもありますクウェートのシェイク・アーマド・ファハド・アル・ジャバ・アル・サバ氏が５月に広島で行われたＯＣＡ理事会の席上、ハンドボール競技においては、もう少し参加チームを増やすよう各国ハンドボール協会に働きかけることを提案されました。

大会の準備を行っている者として、参加チームが確定しないうちは、試合スケジュールだけでなく、それに付随する会議日程、運営役員の数などが確定出来ません。大会を４ケ月後に控え多少のあせりもありますが、ここでジタバタしても始まりません。今日（５月24日）、組織委員会より日本協会を通じてＡＨＦに対し６月15日までに参加チーム数を確定していただく様要請しました。

幸いなことに前回のアジア選手権大会、今回の世界選手権大会東アジア地区予選において、通訳のお手伝いをいただいた広島経済大学のジョージ・ハラダ先生、上田みどり先生をはじめとする諸先生方もアジア大会での応援を約束していただいておりますし、大会役員もアジア大会期間中は公休を取る準備をしてくれています。

本格的な準備はこれからになると思いますが、大会には万全の状態で外国チームをお迎えしたいと思っています。

第1回女子世界学生選手権大会参加に際して

全日本学生連盟理事長　福地　賢介

第1回女子世界学生選手権大会は、平成6年6月19日より26日までスロバキア・ブラチスラバにおいて、日本、韓国、台湾、アメリカ、ブルガリア、チェコ、ドイツ、ルーマニア、ハンガリー、ポーランド、ロシア、スロバキアの12ケ国（グループ分けは25日以降）が参加し開催される。

男子は、本年で第13回目の開催となるが、女子は6年ほど前から開催云々の話は聞かれ、第11回男子世界学生の時には、女子の世界学生が開催されたら、日本は参加の意志があるや否やの問い合わせもあった。その後も、開催の噂は聞かれたが、具体的な情報がまったくなかった。

日本協会斎藤事務局長の大学スポーツ連盟事務局への細かい心配りのお陰で、今回の開催をキャッチ。更に、昨年3月の第1回エントリー手続きを行ってもらい、初めて女子世界学生が実感として捕らえられたが、学生連盟の関係者は、正直言ってやっと開催かと言う印象は否めないのではないか。

選手は各地区の推薦選手とインカレの結果による推薦選手を集め、選考合宿を平成5年11月（ジャスコ）、平成6年2月（ブラザー工業）、同3月（オムロン・全日本強化試合＝広島）と各々行い、別記のような選手を最終選考して、大会に挑むこととなった。

男子の大会では、ナショナル選手及びその国の次代を担うとされる、それに準じた選手で構成されているが、女子の場合は、各国どのような選手構成かはまったくわからないが、男子同様にナショナル選手中心に、それに準じる選手が若干名という構成ではないかと予想している。

参加国を見ると昨年の女子世界選手権大会上位進出国であるドイツ、ロシアをはじめとして何れもハンドボール強豪国であり、苦戦は免れないかと思われるが、女子学生界にとって、良いも悪いも世界でのランクづけがなされる機会であり、少しでも上位を狙うと言う藤原監督、樫塚、田中両コーチの意気込みが感じられ、それなりの成績と大きな収穫を得てくるものと思っている。

最後に今回の大会参加に際して、事務手続き、その他でご協力をいただいた協会役員と事務局の皆様、情報提供をいただいたNHK杉山様、また合宿でお世話になった各企業の方々、それに商品提供をいただいている各企業の皆様に書面をお借り致し、お礼の挨拶をさせていただくと共に、大会終了後に詳しい報告をさせていただきたい。

日本女子学生選抜チーム

	氏　名	所　　属
団　長	福地　賢介	全日本学生連盟理事長
監　督	藤原　　侑	日本体育大学監督
コーチ	樫塚　正一	武庫川女子大学監督
コーチ	田中　　守	福岡大学監督
トレーナー	田邊　利香	浜脇病院
審　判	後藤　　登	国際審判員（A）
審　判	清水　宣雄	国際審判員（A）
通　訳	三浦　俊也	ドイツ在住・ケルン大学
G　K	安田真由美	日本体育大学３年
G　K	中井　美世	武庫川女子大学２年
G　K	遠藤ひろみ	東京女子体育大学２年
C　P	田村　啓子	武庫川女子大学４年
C　P	山田美智代	東京女子体育大学４年
C　P	大前　佳世	筑波大学４年
C　P	三安　雅美	武庫川女子大学４年
C　P	神津　奈美	東京女子体育大学３年
C　P	小谷内陽子	筑波大学３年
C　P	稲次　　彩	筑波大学３年
C　P	小林　直美	福岡大学３年
C　P	後藤　　園	日本体育大学２年
C　P	梶田　華恵	東京女子体育大学２年
C　P	宮本奈芳美	日本体育大学２年
C　P	辻　賀奈子	大阪体育大学２年
C　P	久保　幸江	大和銀行

※久保選手は平成６年３月卒業のため大会規定により出場資格が認められている。

JBHプレジデントカップ

男子の部

中村荷役が初優勝！

全日本実連常務理事
喜井　美雄

今回の会場の愛知県体育館は、本年開催の「わかしゃち国体」に向け改装され、フロア、テレビ中継等整備され良いコンディションの中で開催されました。

今大会は、平成6年度最初の大会で、各チームの補強状況を知るとともに、全日本A選手がいない事もあり、残りメンバーでチーム力を知る絶好の機会であった。

1回戦は、地元の対戦で接戦が予想されたが日本電装が快勝、大同特殊鋼、中村荷役、三陽商会の日本リーグ一部が順当に勝ち進んだ。

2回戦は、後半ベテランの活躍で湧永製薬、新人、中堅の動きの良い大崎電気、新人、ベテランが旨く噛みあい前半で勝負を決め、昨年の日本リーグ優勝の日新製鋼を破った中村荷役、本田技研は三陽商会に接戦の末僅差で辛勝。

準決勝戦、湧永製薬対大崎電気は立ち上がりより互角に接戦をし、終盤までもつれたが、退場者が出たスキをつき大崎電気が勝利をものにした。中村荷役対本田技研も立ち上がり互角に接戦していたが、中盤、中村荷役の呉の攻守に渡る活躍により差を広げ勝ちを呼び込んだ。

決勝戦は大崎電気対中村荷役となり、初の対戦となった。大崎電気は新人森本、GK工藤を中心によく頑張ったが、中村荷役は呉の攻守に渡る活躍と新戦力木浪の活躍により大崎電気に快勝し初優勝を飾った。

今大会を振り返ってみると、中村荷役の進境と名門大崎電気の復活が印象に残った。あとのチームは年度始めのためかミスプレーが目立ったが、優秀な新人の台頭もあり明るい材料もらった。

最後に、本体会の関係各位に厚く御礼申し上げ、来年の大会に期待を寄せて、私の感想と報告と致します。

女子の部

大崎電気がオムロン下す

全日本実連副理事長
吉澤　力男

本年10月に広島で行われるアジア大会に向けて全日本チームの強化合宿・海外遠征を続けている中で開催された「JBHプレジデントカップ」であった。

今年の大会は、各チーム共にナショナル選手を欠いた戦力での参加になった。しかし、男女12チームの関係各位の温かいご協力とご支援により無事に大会を成功裡のもとに閉じることが出来、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、本大会でありますが、目立った特徴として次の三点が挙げられる。

一、ナショナル選手を欠いた戦力であるため、一部のチームを除きチームのまとまり、迫力あるプレーが例年にくらべ少なかった。

二、しかしながら、ナショナル選手のあとを若手の控え選手が出場の機会に恵まれ、若々しいプレーを展開してくれた。

三、優勝した大崎電気をはじめ、各チームの補強した韓国、中国の選手は、技術・スタミナにおいて日本選手を大きく上回っていた。

大会中に、女子チームの監督に感想を聞いたところ、確かにナショナル選手が抜けた穴は痛いが、これはお互い様で、そのことよりも若い控え選手をレギュラーとしてこの大舞台でプレーさせることが出来たのは、今後の戦力を見ていくのに大きな成果があったとの声が多かった。また本大会に備え練習を積んできた選手にとっても、予定通り開催したことは非常に好評で、我々開催関係者も、結果において正解であったと意を強くするとともに、今後の参考例にしていきたく思う。

大会は下馬評通り四強にオムロン、北国銀行、大崎電気、日立栃

木が危なく勝ち残った。この4チームがベスト4に進出したことも今大会の特徴が出ている。即ち、大崎電気、北国銀行の韓国選手、オムロン、日立栃木の中国選手は、それぞれの国のナショナル選手で、かつ油の乗り切ったベテランであり、日本の若手選手ではディフェンス、オフェンス共に太刀打ち出来なかった。しかし、大崎の白選手、オムロンの張・王選手、日立栃木の陳選手、北国銀行の白選手等のプレーを目のあたりにして貴重な経験をしたと思われる。

この経験を生かし、大会参加の若手よりナショナル選手が輩出し、白仁淑選手を上回るプレーヤーに育ってほしいと念願する。

優勝戦は、大崎電気の白選手の個人技が冴え、これに加えセブンのファイト溢れるプレーがオムロンを大きく上回り、前半で13―7と大きくリードした。後半に入りオムロンの反撃が期待されたが、懸命のティフェンスも功を奏せず、大崎電気のカットプレー、速攻が冴え、得点は開く一方であった。敗れたオムロンでは内村選手の健闘が光った。

優勝した大崎電気は4年目の栄冠で、王者大崎の復活を感じさせた。

準決勝の大崎電気対北国銀行は、両チーム共に優勝候補の筆頭に上げられたチームだけのことはあり好試合を展開した。

試合は、両チーム共に白選手を中心にミドルからのシュート、フェイントからのカットインシュート等で後半22分まで1点を争う展開であったが、終盤で北国の得点が伸びず、後半も好調を持続した大崎電気が新人広瀬選手の活躍もあり、かろうじて逃げ切った。

もう一試合のオムロン対栃木日立は、選手層の厚さを誇るオムロンが、内村、張選手を中心にミドルシュート、サイドシュートで得点を積み重ね、陳、中山選手を中心に健闘した日立栃木に楽勝した。

優勝戦は一方的な試合になったが、最終日の3位、5位、7位決定戦は1点を争うシーソーゲームを展開し　若さあふれるプレーが随所に見られ、観客の皆さんには十分満足のいただけた試合であった。

最後に、この大会を機会に若手が成長し、秋の日本リーグで活躍することを期待する。

■男子の部　成績表

▼1回戦

日本電装	28―21	トヨタ車体
大同特殊鋼	25―14	北陸電力
中村荷役	28―17	大同特殊鋼星崎
三陽商会	22―10	トヨタ自動車

▼2回戦

湧永製薬	24―19	日本電装
大崎電気	22―18	大同特殊鋼
中村荷役	21―20	日新製鋼
本田技研	21―20	三陽商会

▼準決勝

大崎電気	24―23	湧永製薬
中村荷役	20―14	本田技研

▼決勝

中村荷役	28―22	大崎電気

▼3位決定戦

湧永製薬	24―20	本田技研

▼5位決定戦

日新製鋼	19―17	大同特殊鋼

▼7位決定戦

日本電装	21―18	三陽商会

▼9位決定戦

トヨタ自動車	24―19	トヨタ車体

▼11位決定戦

大同特殊鋼星崎	21―19	北陸電力

◎個人表彰

〈ベスト7〉

GK　林田庄司（中村荷役）
FP　呉　龍基（中村荷役）
　　八尾泰寛（中村荷役）
　　森本彰宏（大崎電気）
　　酒巻靖治（湧永製薬）
　　満井健康（本田技研）
　　林　珍錫（大同特殊鋼）

〈新人賞〉

木浪達丈（中村荷役）

〈最優秀監督賞〉

松本　勇（中村荷役）

■女子の部　成績表

▼1回戦

大和銀行	28―17	ソニー国分
大崎電気	32―10	ムネカタ
シャトレーゼ	17―10	JUKI
ジャスコ	25―15	自衛隊

▼2回戦

北国銀行	25―16	大和銀行
大崎電気	34―20	ブラザー工業
オムロン	16―13	シャトレーゼ
日立栃木	30―22	ジャスコ

▼準決勝

大崎電気	17―15	北国銀行
オムロン	29―17	日立栃木

▼決勝

大崎電気	31―21	ムロン

▼3位決定戦

日立栃木	21―18	北国銀行

▼5位決定戦

ブラザー工業	25―24	シャトレーゼ

▼7位決定戦

ジャスコ	20―19	大和銀行

▼9位決定戦

ソニー国分	21―13	自衛隊体育学校

◎個人表彰

〈ベスト7〉

今野清美（大崎電気）
杉原ゆかり（大崎電気）
白　仁淑（大崎電気）
内村裕子（オムロン）
光井フミ香（オムロン）
陳　恵馨（日立栃木）
西川和江（北国銀行）

〈最優秀新人賞〉

広瀬喜代香（大崎電気）

〈最優秀監督賞〉

矢内　浩（大崎電気）

女子ナショナルチーム
長期合宿について

女子ショナルチーム監督
緒方　嗣雄

アジア大会に向けて女子ナショナルチームの長期強化合宿が、４月10日よりスタート致しました。

この合宿の準備のために、２月と３月にそれぞれ１週間ずつ合宿を行い、１９９１年の長期合宿の経験談とか、今回の合宿での進め方について細かいところまでミーティングを重ねて確認を致しました。また、体力的にはシーズンオフのために、どのチームも基礎体力作りに取り組んでいる時期のために問題はなく、選ばれた選手一人一人の意欲も充分に感じられた。体力的・精神的には相当レベルの高いところからスタートが切れることを確信。

４月９日、広島グランドホテルに集合。選手19名（メンバー別掲。比嘉選手は大学に新入学のためにオリエンテーリングで欠席。西村選手は１週前に膝を痛めて１週間遅れ）の内、17名参加。長期合宿のスタッフは私と穂積コーチの二人と、体力面の臨時コーチをして頂く山口大・森田先生、藤原女子強化専門委員長の合計21名。簡単なミーティングを行い、合宿スタートの意気込みを確認しあった。

夜は広島ハンドボール協会主催の激励夕食会を開催して頂き、合宿前夜の楽しい一時を過ごさせて頂き、広島ハンドボール協会には大変お世話になりました。

◆４月10日から10月１日までの長期合宿スケジュール

《第一期》４月10日～５月20日（41日）
＝広島・呉市

一、海上自衛隊呉教育隊、体験入学
（４月10日より４月16日まで）
①強い精神力の養成と人間形成
②ナショナリズムの徹底
③チームワークの強化

二、宿舎＝呉海員会館
練習＝日新製鋼体育館
海上自衛隊からす小島体育館
自衛隊内ウエイトトレーニング場
自衛隊内ランニングコース
①基礎体力の向上とスピード強化
②基礎技術の向上

《第二期》５月21日～６月15日（26日）
＝熊本・オムロン鹿陽センター
①個人基礎技術の向上
②コンビプレー、サインプレーの強化

《第三期》６月16日～８月４日（50日）
＝栃木・日立栃木体育館及びグラウンド
①戦術（攻撃・防御）原型の獲得
②コンビプレー・サインプレー習得

《第四期》８月５日～９月３日（30日）
海外遠征
デンマーク、スロバキア、ドイツ、ポーランド
①試合（大会参加）
②戦術応用及びテスト

《第五期》９月５日～９月25日（22日）
＝栃木・日立栃木
①戦術の安定化
②体力の調整

《第六期》９月26日～10月１日
＝広島・アジア大会選手村
①調整
第12回広島アジア大会出場

週間トレーニング

	月	火	水	木	金	土	日
6:30～7:10	ジョギング	ランニング		ジョギング	ランニング		休養日
9:30～10:10	サーキットトレーニング			サーキットトレーニング			
10:10～12:00	トレーニング↓						
14:00	トレーニング↓						
17:20～18:00		ランニングトレーニング		ランニングトレーニング		ランニングトレーニング	
19:30～20:30	ウェイトトレーニング		ウェイトトレーニング		ウェイトトレーニング		

・ランニングトレーニング／12分間走の記録を基準としてメニューを組む。
・サーキットトレーニング／30分を基準として６～８種目を３セット。

以上が大会までの長期合宿予定です。次に1週間のトレーニング予定であります（別図参照）。このサイクルで約2ケ月間続けて体力的に向上させ、次回より戦術的なことを中心とする。

第三期合宿では戦術面の強化を進め、海外遠征で約25試合予定しており、その中で戦術のテストを行い、チームとして採用戦術の確立を図りたい。第五期で戦術の安定と調整を目的として長期計画を致しました。

◆第一期合宿の内容について

《目的》

長期合宿に当たり、規則正しい生活環境の中でチームワークを図り、ナショナルチームの一員として自信と誇りを持ち、アジア大会に臨むために、海上自衛隊呉教育隊で体験入隊を経験致しました。

体験入隊は普通2泊3日が規定であり、今回の全日本女子チームの1週間の体験入隊は異例であり、いろいろな人にお世話になり今回の体験入隊となりました。基本教練、手旗、結索（ロープの結び方）、躾、水泳、短艇（カッター）、教育参考館見学（特攻隊員の遺書、遺品を展示）、艦艇の見学、いろいろと細かいところまで体験出来ました。朝の起床から時間に追われ、ベッドの整理、シーツの皺取りを何度もやり直したり、集団歩行訓練、一人では簡単に出来るが17人が気持ちを整えての集団訓練は大変であります。繰り返し何度も練習することにより、少しは格好も良くなって来ました。号令の声も最初は大声が出ないが、次第に慣れて、良く通る号令が掛けられるようになった。江田島参考館では、若くして戦場に行き、特攻隊として国のために身を捧げた隊員の遺品、遺書を見学し、選手全員、胸を打たれ涙を流しながら時間も忘れ読んだ遺書に感動。今回の体験入隊の目玉であった。短艇訓練、チームワークという点からも楽しみなトレーニングであり、選手も期待しておりました。1回目は雨で流れたが、2回目は好天に恵まれた。3名の指導隊員と我々19名が一艇に乗り込み、海上へ出る。ここでやっとオールの操作の指導を受ける。漕ぎ方、立て方と何と手荒な指導方法であるが、一番指導効果の出る方法でもある。真剣に取り組み、必死になって気持ちを合わせ、オールを漕ぐ手も揃い前進するようになって来た。2時間内で一応の成果が出せた訓練であった。

毎朝の国旗掲揚にも不動姿勢で臨み、胸に付けた日の丸の重さを感じさせられました。

体験入隊最後には、司令出席のもと新隊員全員による歓送迎会が行われ、1週間前の体験入隊の慰労と今後の活躍を期待され、エールを送られた。思い出に残る1週間であり、初期の目標を計画通り達成出来たと確信致しました。

練習場所と宿舎を変えて、次の目的、体力の強化、基礎技術の強化に取り組む。

1ケ月間、走り込み中心の基礎体力アップを図った。前記計画による日課で練習を進めた。始めて4日目当たりから身体の疲れのピークを迎え、筋肉痛を訴える選手、古傷の再発を訴える選手が増え出したが、練習は計画通り緩めることなく進めることにした。岡本トレーナーが4月25日、合宿入り。毎日、早朝から夜まで選手の治療、手当をして頂き、回復が早くなり随分助かった。

《合宿の生活》

単調な基礎体力練習にも慣れて来て、順調に軌道に乗ったのは5月の連休に入ってからである。

選手の中で若手メンバーの明るさにベテラン選手たちの引っ張られる場面が多く、また若いがために時々脱線する場面もあるが、前回長期合宿とは違った味が出て来ているので、この調子で進んで行きたい。

怪我で調子を落している選手の体力面が心配であるが、徐々に回復の兆しがあ、少しの辛抱で全員揃っての練習が出来る。先はまだ長いので、焦らず、マンネリ化にならないように進んで行きます。今後とも、女子ナショナルチームにご声援下さい。

最後になりましたが、選手所属チームの関係者、広島県ハンドボール協会、呉ハンドボール協会、浜脇病院、陸上自衛隊の関係者、特に塩見氏には大変お世話になり、お礼申し上げます。

女子ナショナル長期強化合宿参加者名簿

監督		緒方　嗣雄	1946.11.19			大和銀行
コーチ		穂積　豊彦	1952. 3.26			北国銀行
選手		氏名	生年月日	身長	体重	所属
GK	1	川島ゆう子	1968.10.21	173	65	オムロン
	12	村山みどり	1969. 1. 9	177	69	シャトレーゼ
CP	2	荒川　裕子	1973. 4.25	172	68	大和銀行
	3	上出恵美子	1973. 5.17	168	55	北国銀行
	4	松本　恵美	1974. 7. 6	173	73	日立栃木
	5	山川　由加	1974. 5.29	167	57	ブラザー工業
	6	比嘉　晴美	1969. 9 12	164	53	福岡大学
	7	貴田　直子	1969.10.18	174	65	日立栃木
	8	小俣　訓子	1969.11.15	157	55	大和銀行
	9	土師　基子	1971. 9.14	166	62	ジャスコ
	10	谷本　泉	1970. 6. 5	162	59	北国銀行
	11	松下由紀子	1970. 8.27	161	54	北国銀行
	13	西村　聖子	1970.10.14	173	62	オムロン
	14	西口　貴子	1971. 6.28	173	60	大和銀行
	15	市来　未央	1968. 1. 3	159	63	日立栃木
	17	古田　千明	1969. 5.30	154	55	オムロン
	18	小松　晃子	1969. 9.11	179	70	シャトレーゼ
	19	本間　尚美	1971. 1.17	168	63	大崎電気
	20	田中美音子	1975. 1.14	158	49	大和銀行

男子ナショナル選手のコンディショニング

東アジア予選等における傷害状況から

スポーツドクター　河野卓也
理学療法士　豊嶋伸介・川波賢一

一・男子ナショナルチームの競技力現況

第14回世界選手権大会男子東アジア地区予選が5月4日から8日までの貴館、日本、韓国、中華人民共和国（以下、中国と略）の3ケ国参加により広島市で実施された。

競技結果としては、1位韓国、2位日本、3位中国の成績（韓国36－21中国、韓国25－17日本、日本 － 中国）であった。

男子全日本チームとアジアの雄・韓国との試合内容から判断される日本の技術、体力、気力・意欲等がみられる総合競技力は、満足される水準とは言い難かった。

二・メディカルサポートからみたコンディショニング

そこで我々スポーツ医科学委員会は、メディカルサポート面から少しでも男子ナショナルチームの競技力水準を韓国水準に近づけるための検討を加えてみた。

すなわち、スポーツドクター群挙げてメディカル・サポートと取り組んではきたが、果たして医療処置やチームや選手の期待や要求水準を満足させていたのだろうか。

検討の資として東アジア予選医療報告（スポーツドクター、整形外科、河野卓也＝横浜市立港湾病院）及び3月に広島市で実施されたチャレンジマッチ医療報告（トレーナー、理学療法士、豊嶋伸介、川波賢一）からその状況や改善方向を追及してみた。

別表の医療処置状況から概見しても20余名の男子ナショナル選手がトップコンディションで各競技会に参加することの困難性がうかがえる。すなわち既応症が完治しないままの合宿や競技会参加を強要されなければならない状況では、スポーツ医科学委員会だけで解決できる問題ではなかろう。

三・あるべきメディカルサポート体制

従って本誌では、ナショナルチームが監督の意図下で持てる競技力を十分に準備するためのメディカル・サポート体制のみにスポットを当てた提案を試みた。

1．ナショナルチームの合宿、競技会、海外遠征には、スポーツ医科学委員会、メディカルサポートスタッフ（スポーツドクター、トレーニングドクター、トレーナー）の会期間参加が望ましい。しかしながら、経費、病院勤務状況等人的確保の条件を常に満足させることは困難な問題であろう。病院や大学勤務のドクター等の派遣可能期間も1～2週間が限度であろう。したがってドクター群に代わって、民間企業に所属するトレーナー等の「依頼契約」による派遣依頼がチームの要望や恒常性の面から最も可能性の高い方策であろう。

2．現時点で必要かの可能なメディカルサポート体制としては、監督も要望しているように、男女ナショナルチームに各1名の専属トレーナー（理学療法士、スポーツトレーナー）を配置し、ナショナルチームの全行動に帯同する。その際、トレーニングドクターの参加が望ましいことは言うまでもない。

3．チームドクターは、整形外科医、内科医、婦人科医等の何れかが海外遠征等に帯同するが、専属トレーナーのようにドクターを固定することは困難であるので、交替の各ドクターは、緊密に協議しながら、選手のコンディションを調整して、それぞれ医療報告を作成し、チーフドクターが常時それをまとめ、次の帯同ドクターに選手の医療情報を提供する。以上のように、専属トレーナーと複数の交替ドクターが連携した「メディカルスタッフ」体制を確立することを提唱し、逐次定着させたいものである。

（監修：スポーツ医科学委員長　西山逸成）

表　医療処置（対応）状況

選手	チャレンジマッチ（H6.3.10～3.12）	選手	東アジア予選（H6.5.4 ～5.8）
A	右足関節後脛骨筋髄炎（テーピング固定）	A	右足関節捻挫（サポーター固定）
B	右足関節腓骨筋髄炎（テーピング固定）	B	
C	右小指突き指（アイシング）	C	両膝窩筋筋痛（インテバン塗布・マッサージ）
D	右足関節捻挫（装具）	D	右小指ＭＰ関節・靱帯損傷（テーピング固定）
E	左下肢三頭筋の肉ばなれ（テーピング）	E	
F	左膝腸脛靭帯炎（ストレッチング指示）	F	頭部打撲（頸部アイシング、マッサージ） 左膝腸脛靭帯炎 外側ハムストリング腱炎（マッサージ・ストレッチング）
G	右足関節後脛骨筋腱炎（テーピング固定）	G	左膝内側々副靱帯損傷 左腓腹筋肉離れ（筋断裂）（マッサージ、テーピング、アイシング）
H	腰椎椎間板症の腰痛（ストレッチング）	H	右示指ＭＰ関節炎（テーピング） 腰痛症（ストレッチー体幹、下肢）
I	肩の痛み	I	
		J	左大腿直筋々膜炎（肉離れ前）（サポーター圧迫、ストレッチング、マッサージ）
		K	右腓腹筋肉離れ（松葉杖負荷歩行～マッサージ）
		L	右アキレス腱周囲炎（マッサージ） 腰痛（マッサージ）
		M	右膝痛（膝蓋腱部）（インテバンクリーム塗布）
		N	右小指関節側副靱帯損傷（テーピング固定）

国際Ａ級審判員とエンブレム

小笠原　久郎

本年2月下旬、ＩＨＦ／Ａレフェリーコースに合格し、国際審判員という資格を得ることが出来ました。

4月に入り、ハンドボールのシーズンも到来し、各大会が全国各地で開催される中で、本年度最初の全国大会であるＪＢＨプレジデントカップ（男子・愛知県名古屋市）に指名されました。その間に、東京高体連での関東大会予選、関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦を数試合担当してきました。

ＪＢＨプレジデントカップが全国大会レベルの最初の大会で、これがデビュー戦とでも言うものになりましょう。

我々は従来、全国大会（インターハイ・国体ｅｔｃ）には日本協会指名レフェリーとして参加してきました。指名レフェリーとは、国際審判員Ａ・Ｂとエリートレフェリーとして指名された審判員の中から、それぞれの全国大会に派遣されるものです（当然のことながら、この指名は審判委員会の中で決定されます）。今までは、国際Ｂ級の資格での指名でしたので、ワッペンは日本のＡ級のワッペンをつけていました（国際審判員はＡ・Ｂに分けられており、青ワッペンをつけられるのはＡレフェリーコースに合格した者のみに与えられるワッペンです。従って国際Ｂでは、青ワッペンはつけることはできません）。

国際Ａ級審判員がつけるワッペンは青い色のものですが、ＩＨＦではこのワッペンのことをシルバーエンブレムと言っています。

そして、シルバーエンブレムの他にゴールドエンブレムというものがあります。聞き慣れない言葉ですが、このゴールドエンブレムとは、オリンピック・ＷＣに指名された者に与えられるエンブレムのことです。我々の多くはシルバーエンブレムです（エンブレムのふちがシルバー糸のものです。ゴールド糸でふち取りしているのが、ゴールドエンブレムです）。

ゴールドエンブレムを取得するのは、簡単なことではありません。何故ならば、アジアハンドボール連盟で、数多くのアジアの国際レフェリーの中で上位にランクされなければなりません。次に、例えばオリンピックのレフェリーを決定する際に、大陸別にレフェリー指名された上で、特別のレフェリーコースに参加し、そこで合格できてはじめてオリンピックレフェリーになるわけです。特別のレフェリーコースは、当然ＩＨＦのコントロール下におかれ、実技テスト、ペーパーテスト、体力テストをクリアしなければなりません。もちろん外国語（独・仏・英の中から一つ）も堪能でなければなりません。ゴールドエンブレム取得レフェリーは、大変名誉なことですが、その陰では並々ならぬ努力なくしては取得出来るものではありません。

我国には、その名誉であるゴールドエンブレムを取得しているレフェリーがいます。バルセロナオリンピックにおいて世界の桧舞台を経験された島田房二氏と後藤登氏です。この二人の存在は、日本だけでなくアジアの中においても、エリートレフェリーとして評価されております。

現在の日本においては、ゴールドエンブレムの島田氏・後藤氏の他に、川島克之氏・森敏郎氏・岡本研二氏・清水宣雄氏と我々がシルバーエンブレムを取得しております。中には定年になられる方々もおりますが、島田氏・後藤氏に一歩でも近寄れるよう努力してゆきたいと思います。ＪＢＨプレジデントカップで初めて付けたシルバーエンブレムの重みと責任を感じ、常に新鮮な気持ちでコートに立ちたいと思っております。

国際Ａレフェリーとしてデビューして

浜田　浩和

この2月に国際Ａ級審判員に合格してから初めての全国大会が、5月13日から15日まで名古屋で行われたＪＢＨプレジデントカップ男子でした。それまでにも、高校生や大学生の試合を吹きましたが、

この大会がブルーワッペンをつけてのデビュー戦でした。

国際審判に合格してから今まで何をして来たかと言われても、日頃の体力トレーニング（職業柄体育の教員のため、環境には恵まれています）と、語学学校に通う程度で、今まで以上に努力をしているとは言えません。その点においては明確な研究課題を設定して勉強していかなければならないことを、この全国大会を終え、今こうして筆を取りながら実感しています。

さて、実際の大会はどうであったかと言うと、この大会は各チーム共ナショナルプレイヤーを欠き苦労しているが、総合や日本リーグと一味違った大会でした。そして、この大会の中で確実にブルーワッペンのプレッシャーを感じていました。それは簡単に口で言い表わせませんが、責任の重さを十分に感じました。今までは、いい笛を吹こうとか特に意識もなく、ただゲームの流れをこわさずにとリラックス出来たものでした。しかし今はきっと心のどこかに、失敗しないように、今までとは違うぞなどと、自分自身にプレッシャーをかけ心揺れ動いていると実感しました。さらにゲーム内容の難しさが、レフェリングを難しくさせる結果になったとも感じられました。

ゲームの流れをこわさずに選手一人一人を伸び伸びとプレイさせるよう見極め、罰則については段階的に適用していこうと、いつも以上に意識を強く持ちすぎていました。その結果が、自分自身で思っていることとは逆のものになってしまいました。ここで新たに、一試合の中で緊張もあればミスを悔やむこと、迷いなど様々な心理状態が起こります。その中で、いかに平常心で、プレイを見極め、現象に的確に対応出来るかが自分自身との戦いになります。安定したレフェリング、これは経験の豊かさが一番だと思います。

今まで述べてきたことは、誰しもが一度は感じたことがあることだと思います。さらに進めてハンドボールのレフェリーは同じ権限を持つ二人のレフェリーが一つのゲームを管理します。違った性格、生活環境の二人が、一つのルールを適用するのに多少なりともずれがあると思います。ハンドボール観の違いもあるはずです。そんな二人が共通理解を持つためには、ある程度の時間と努力を必要とします。私達ペアも、一緒に審判をするようになって10年程経ちます。10年が長いか短いかはわかりませんが、毎年新たな目標を持てているので、新鮮な気持ちはいつもあります。と同時に、ここ2、3年では、互いのレフェリングを尊重し、二人で一つの判定をしているのだという意識を強く持つようになりました。

前述しましたように、これからも多々課題があります。国際審判員になり、国内でのデビュー戦がこの大会でしたが、今まで通りにそしてA級であろうがD級であろうが、いつもレフェリーとしての基本に忠実になることが大切であることは、国際審判員になっても同じです。ただ、今までと違うのは、海外の試合を吹けるチャンスが出来たことで、当然のことながらアジア地区のハンドボールとヨーロッパとのハンドボールは違うと思います。その中で私達が求められているものを明確にし、日本の審判部門の発展のため、日本のハンドボール界の発展のために少しでも役立てるよう努力していきたいと思います。

まだまだ国際審判員としての実感はワッペンの重みだけで、それ程実感出来ません。このことは、多分海外に出て実感出来ることだと思います。いろいろなことを実感出来るためにも、日々努力をおこたらないようがんばっていきたいと思います。

連載 8

ハンドボールの指導法

＝ルールと技術＝

指導委員会委員長
大西　武三

本指導法の連載も回数を重ねてきたが、こちらの事情で内容に一貫性が見られず申し訳なく思っている。

今回はルールと技術の題で書いてみたい。

共通の土台で試合をする

ハンドボールをハンドボールならしめているものはルールである。日本ではＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）が発行した英語版競技規則を翻訳して「ハンドボール競技規則」として(財)日本ハンドボール協会が発行販売している。この競技規則書をもとに日本各地で競技されているわけである。オリンピック年毎に改正されているが、皆さんこれを手に取って読まれた事があるでしょうか。



図１

言うまでもなく、チームが平等の条件で試合できるのは共通に理解するルールがあるからである。しかし、もしチームによってルールの理解度が違ったら、お互い気持ちよく試合をする事ができるでしょうか。幾度となく不愉快な思いで試合を終えた経験をお持ちの人も多くおられる事と思います。特に身体接触が伴うハンドボールでは、相手に対する動作のルールの理解度あるいは尊重度によって、気持ちよく試合できるかどうかの分かれ道となる（図１）。

ハンドボールの理念

ハンドボールとはどんなスポーツであるかはルールブックを読むだけではわからない。それを基にしてハンドボールをどんなスポーツにして行くかと言う考え(理念)がなければならない。ルールの精神を理解し、それを実際のプレイに置き換えるにはハンドボール観・理念がその根本になければならない。特に指導者やレフェリーはハンドボールとはどんなスポーツなのか、あるいは将来に向けてハンドボールをどの様なスポーツにしていかなければならないか、その理念をしっかり持って指導し、あるいはレフェリングして行かなければハンドボールの発展はおぼつかない。

ルールのテストをしてみると

私の大学でも、ハンドボールのルールのテストをやる事がある。勿論テストを受けるのはハンドボールを専門にやってきていない人がほとんどである。従ってルールテストの内容はいたって簡単なものばかりである。

採点の段になって、ハンドボールを専門にやってきたものはまず間違わないだろうと思って採点してみると、これが大間違いで、意外と基本的なルールを知らない事にびっくりする。一般の学生の中でルールの勉強をしてきた者がハンドボールの学生よりよい点を取る者がいるくらいである。

指導者としての反省

何故この様な結果になるかと言えば、ルールは試合や練習で見様見真似で覚えているからである。

指導者もルールをルールブックそのものを活用して教えている事はまずない。それぞれが感覚的、体験的にルールを身につけているために、いざ正式に問題を出されると簡単なものまで間違ってしまうのである。

ゲームで時として、感覚的に覚えているルールでは間に合わず、思わぬ大きなミスをしてしまってゲームを落すという例を幾度か見てきている。やはりハンドボールを規定しているルールとそれを運用するレフェリングをしっかりと指導者もプレイヤーも理解する事が必要であり、そのことは技術・戦術を高める方法にもつながるものである。

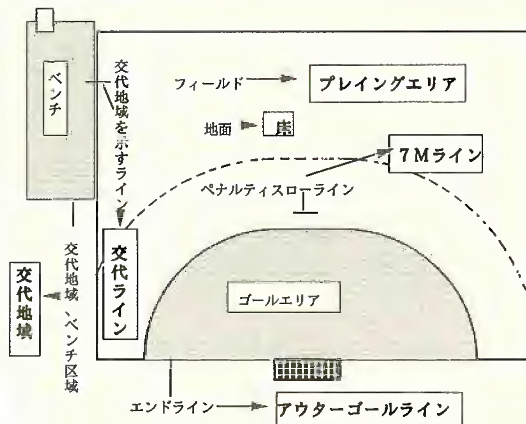


図２

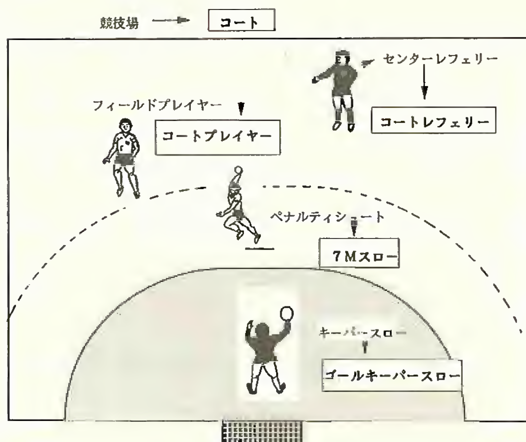


図３

ルールの用語が変わった

平成5年度から8項目のルール改正がなされたが、日本ではこれを契機としてルールの用語もIHF英語版の用語を出来るだけ尊重する方向で改正され、まだ全体的に理解がなされていないようなのでここでとり上げたい。

図2、3は変更された用語を四角で囲って示した。図で説明したもの以外で変更されている用語としては、

ファーストネームレフェリー
↓第1レフェリー
セカンドネームレフェリー
↓第2レフェリー
違反、規則違反、違反行為、反則
↓違反
ベンチ規定
↓交代地域規定

ルールとブロックサイン

私の地域で小学生のハンドボール少年団があり、私の家内や大学の選手が指導者として毎週土曜日に教えている。

今年のチームは小さい子が多いので、ブロックプレイで割り込む方法を教えようという事になった。早速教えたところ、学生の指導者は「小学生にブロックプレイは難しい」という。「それよりディフェンスに当たって崩すブロックプレイの方が易しくて効果的ではありませんか」という。「当たって崩すブロックプレイは反則でしょう。うちのクラブは正攻法で戦うので、そんな事は教えられません」というと当の学生は初めきょとんとしていたという。私も、正攻法で戦うのが試合と思っているので、学生にそんな方法を教えた事がない。そう言った学生はまだ大学にきて間もない事から、感覚的に身につけてきたプレイの中に、当たって崩すというブロックプレイがきっと正当なプレイとして身についているのではないかと思われる。恐らくディフェンスをしていて後ろからドシンとブロックされ崩されて抜かれた経験があるのだろう。審判も見えなくて見逃したために、「こういう方法もいいのだな」と感覚的に正当なプレイとして覚えてしまったのかも知れない。ゲームにおけるレフェリングは神業のごとくであり、大事なポイントになるところは判定するものの、見逃されている違反はいくらでもあるはずである。そういう中で育ってくるプレイヤーはきちっとしてルールの勉強をしない限り、本当のハンドボールのルールに触れる事が出来ない。


図4 胴体部分（黒い部分）


図5

つかんだり、尻で押したりするのは反則


図6

正当なブロックプレイ

ブロックプレイが成り立つためにはルールブックの

第8条 相手に対する動作
次のことは、許される。
8の3 ボールの保持に関わらず、相手の進路を胴体でさえぎること。

が満たされていなければならない。胴体であることから腕を使って相手を抱き込むようなことは許されない（図4）。またさえぎることは相手の進路に当たらずに立つことであり、相手に当たったり、お尻で押したりすることは反則になる（図5、図6）。

ブロックプレイの種類

ブロックプレイには相手の前面に立つ「パラバン」（図7A）と側面に立つ「サイドブロック」（図7B）がある。またブロックを利用してのプレイであるブロックターンがある。ブロックターンとはブロックした後に反転し、ディフェンスのチェンジのスキを利用してノーマークになる方法である。パラバン、サイド両ブロックとも、ブロックターンは可能であるが、サイドブロックからのターンの方がよく使用される。

特にディフェンスの背後からはいるサイドブロックでの一種である「縦ブロック」からのターンはよく見られる効果的なブロック法である（図8〜）。

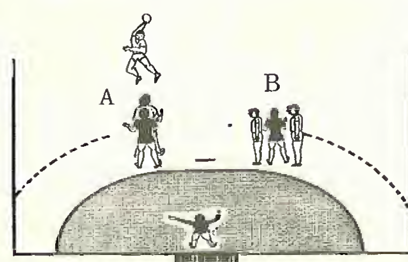
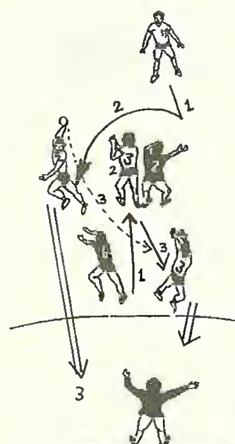
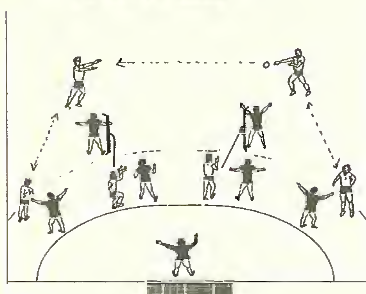


図7


図8


図9

縦ブロックについて

縦ブロックが使われるようになったのは昭和30年代の終わりからローリングオフェンスに代わってセットプレイが流行し出してからである。

図のようにダブルポストでシュートを狙いながらパスを回し出すと、ディフェンスは当時どうしても2・4ディフェンスの隊形をとらざるを得なくなり、前のディフェンスを背後からブロックにはいる都合のよい状態となった（図9）。

フリースロー

広報委員　早川　文司

5月の大型連休は、広島での男子世界選手権東アジア地区予選で、あっけなくすっ飛んでしまった。寂しくもあり、楽しくもあり…。

この大会はご存知のように、日本は韓国の高い壁を破れず、西アジア地区2位とのプレーオフに出場権をかけることになった。今回はここで感じたことを書いてみたい。

試合後のインタビューで韓国の金成憲監督が「15点の実力差がある」と言ったのには正直いってショックだった。しかし、日本の最終目標は10月のアジア大会を経て来年のアトランタ五輪予選の突破である。すべてに優勝を望むのは選手にとって酷である。あくまで最終目標へのステップと考えたい。だから現時点では10点、15点差と言われても目をつぶっていたい。

だが…。敗れた悔しさが選手から伝わってこないのは、なんとも悔しい。日本協会の斎藤会長はねぎらいの言葉をかけられはしたが「ああ、やっぱり勝てなかったか」とケロリでは、あまりにも歯がゆい。

このムードに元日本代表の一人は「やることをやり尽くしたら、物を言うのもいやなほど悔しいはずだ。まだまだやるべきことをやっていないのでは」と評したが、選手にはもっと日の丸の「重み」と「誇り」を感じとってほしい。

韓国と日本では、国の事情が違うと言えばそれまでだが、韓国の選手、ベンチの気迫が日本を上回っていたのは事実だ。精神論を持ち出すつもりはないが、悔しさが表面に出るくらい、日頃のトレーニングをもっと大切にしてほしい。

悔しさが見られないのは、現代の若者の気持ちの切り替えの早さかもしれない。だが、それだけで片づけられるものだろうか。

「本当の悔しさ」とは何か、また何が必要で、何が欠けているのか――もう一度考えてみてほしい。日本代表の一段の成長を願っているからこその苦言をお許し願いたい。

各地の大会結果

北海道

北海道学生春季リーグ戦

（5月19〜22日／釧路市）

■一部リーグ

道都大 28－12 北海学園大
北海道大 22－19 札幌大
函館大 39－22 小樽商科大
北海道大 25－23 道都大
函館大 48－10 北海学園大
小樽商科大 27－23 札幌大
函館大 32－17 道都大
北海道大 33－20 小樽商科大
北海学園大 27－27 小樽商科大
道都大 33－18 札幌大
函館大 32－24 北海道大
北海学園大 30－23 札幌大
道都大 26－26 小樽商科大
北海道大 29－14 北海学園大
函館大 53－13 札幌大

（順位）①函館大②北海道大③道都大④小樽商科大⑤北海学園大⑥札幌大

■二部リーグ（順位）

①札幌学院大②北教大函館③北海道工業大④北教大釧路⑤北星学園大⑥北見工業大

■三部リーグ（順位）

①帯広畜産大②北教大旭川③北大医学部④室蘭公立大⑤釧路公立大⑥北海学園北見大⑦旭川大

■女子リーグ

道女子短大 29－4 北海道大
北教大旭川 23－16 北星学園大
北星学園大 25－23 北海道大
北教大旭川 18－12 道女子短大
北教大旭川 18－11 北海道大
道女子短大 28－8 北海道大

（順位）①北教大旭川②道女子短大③北星学園大④北海道大

東北

青森県高校春季大会

（5月7、8日／弘前市）

◎男子

▼1回戦

今別 23－11 鰺ヶ沢
青森南 17－16 五所川原工
三本木 27－12 青森東
野辺地 33－13 三本木農業
十和田工業 32－13 野辺地横浜
青森山田高 40－5 七戸
五所川原高 19－18 青森

▼2回戦

青森商業 29－12 三本木
今別 27－9 青森南
五所川原高 23－18 十和田工業
青森山田高 27－17 野辺地

▼準決勝

青森商業高 21－10 青森山田高
今別 29－21 五所川原高

▼決勝

青森商業 26（12－8、14－9）17 今別

◎女子

▼1回戦

青森南 32－3 青森東

▼2回戦

青森中央高 37－17 青森南
青森西 22－9 今別
三本木 20－12 六ヶ所
青森商業高 18－17 野辺地

▼準決勝

青森中央高 27－11 青森商業高
青森西 16－8 三本木

▼決勝

青森中央 23（12－4、11－7）11 青森西

関東

茨城県高校春季大会

（日時／会場不明）

◎男子

▼予選トーナメント

□Aブロック

土浦一 19－15 鉾田一
伊奈 24－10 土浦一
笠間 18－16 取手松陽
伊奈 27－15 笠間

□Bブロック

下館一 20－17 日立一
太田一 24－12 古河三
土浦日大高 32－9 下館一
土浦日大高 26－16 太田一

□Cブロック

守谷 22－10 竜ヶ崎南高
守谷 18－16 水海道一高
中央 22－17 岩井西
守谷 23－7 中央

□Dブロック

麻生 26－20 牛久栄進高
霞ヶ浦 26－14 土浦三
岩井 24－16 麻生
岩井 26－16 霞ヶ浦

▼決勝リーグ

伊奈 28－17 土浦日大高
岩井 18－16 守谷
伊奈 23－15 守谷
土浦日大高 18－16 岩井
伊奈 27－16 岩井
守谷 22－18 土浦日大高

（順位）①伊奈②守谷③岩井④土浦日大

◎女子

▼予選トーナメント

□Aブロック

岩井 28－10 鉾田二
水海道二高 30－10 岩井
下妻二 26－6 水戸二
水海道二高 26－4 下妻二

□Bブロック

水海道一高 14－8 中央
並木 19－7 太田二
水海道一高 15－10 竜ヶ崎一高
水海道一高 19－8 並木

□Cブロック

愛国学園高 30－4 鉾田一
愛国学園高 21－20 藤代紫水高

聖徳大附高 32－3 下館二
聖徳大附高 16－11 愛国学園高

□Dブロック
竜ケ崎二高 16－9 日立二
石岡二 22－14 牛久栄進高
麻生 20－14 竜ケ崎二高
麻生 16－7 石岡二

▼決勝リーグ
水海道二高 25－12 水海道一高
麻生 12－6 聖徳大附高
水海道二高 28－11 聖徳大附高
水海道一高 13－12 麻生
水海道二高 25－10 麻生
水海道一高 9－9 聖徳大附高
（順位）①水海道二高②水海道一高③麻生④聖徳大附高

関東高校埼玉県二次予選

（4月29日～5月8日／熊谷市他）

◎男子

▼1回戦
浦和学院 36－7 筑波大坂戸
春日部工業 22－19 庄和
越谷西 19－10 西武台
浦和市立 14－12 草加
川口東 27－8 春日部東
川口北 19－16 朝霞
城北埼玉 22－20 上尾沼南
農大三 26－10 三郷工技
大宮南 24－7 城西川越
春日部 27－13 埼玉第一
浦和西 27－10 上尾東
埼玉栄 21－15 小松原
川口青陵 21－13 岩槻北陵
伊奈学園 22－19 桶川
川口工業 31－25 越谷南
浦和実業 43－8 緑ケ丘

▼2回戦
浦和学院 25－16 春日部工業
浦和市立 17－15 越谷西
川口東 16－9 川口北
農大三 27－15 城北埼玉
大宮南 25－18 春日部
埼玉栄 16－12 浦和西
川口青陵 26－14 伊奈学園
浦和実業 22－14 川口工業

▼準決勝リーグA
浦和学院 26－9 浦和市立
浦和学院 23－9 川口東
浦和学院 20－12 農大三
川口東 19－17 農大三
川口東 23－12 浦和市立
農大三 25－11 浦和市立

▼準決勝リーグB
浦和実業 30－12 大宮南
浦和実業 25－3 埼玉栄
浦和実業 32－13 川口青陵
大宮南 16－7 埼玉栄
大宮南 26－18 川口青陵
埼玉栄 23－17 川口青陵

▼代表決定戦
川口東 19－11 埼玉栄
農大三 24－19 大宮南

▼決勝
浦和学院 23－8 浦和実業

◎女子

▼1回戦
浦和実業 34－12 大宮開成
春日部工業 21－5 川口女子
羽生第一 16－8 農大三
浦和西 33－13 吹上
西武台 33－6 上尾南
朝霞 18－12 秋草学園
川口北 14－9 小松原女子
浦和南 22－8 春日部東
伊奈学園 32－5 浦和商業
川口東 13－10 庄和
浦和学院 19－13 春日部女子
熊谷女子 25－5 越谷南
八潮 28－14 浦和市立
川口青陵 21－14 所沢北
草加 20－13 大宮南
埼玉栄 44－2 本庄第一

▼2回戦
浦和実業 25－4 春日部工業
浦和西 21－18 羽生第一
西武台 22－9 朝霞
浦和南 10－9 川口北
伊奈学園 27－12 川口東
熊谷女子 26－10 浦和学院
八潮 21－20 川口青陵
埼玉栄 34－16 草加

▼準決勝リーグa
浦和実業 21－10 浦和西
浦和実業 21－12 西武台
浦和南 23－17 浦和実業
西武台 20－10 浦和南
西武台 23－9 浦和西
浦和南 28－8 浦和西

▼準決勝リーグb
伊奈学園 19－6 熊谷女子
八潮 16－15 伊奈学園
伊奈学園 22－12 埼玉栄
埼玉栄 19－18 熊谷女子
埼玉栄 21－15 八潮
八潮 25－14 熊谷女子

▼代表決定戦
西武台 17－15 八潮
埼玉栄 22－17 浦和南

▼決勝戦
浦和実業 19－13 伊奈学園

東海

岐阜県中学校選手権大会

（4月24日～5月3日／岐阜県民体育館他）

◎男子

▼1回戦
鵜沼 18－11 興文
羽島 20－9 神戸
桜ケ丘 16－11 大垣東
赤坂 24－9 笠松
蘇原 12－12 日新
6PTC5
中央 19－16 大垣南
南濃 24－11 長森南
西部 13－8 岐南
中山 14－8 緑陽
東部 23－11 那加
高富 15－13 城山
星和 17－9 加納
東山 17－13 稲羽
陽南 19－11 平田

▼2回戦
境川 23－5 鵜沼
羽島 26－18 桜丘
赤坂 29－11 蘇原
中央 21－12 南濃
松倉 21－14 西部
中山 20－18 東部
高富 25－24 星和
陽南 18－7 東山

▼3回戦
境川 24－7 羽島
赤坂 19－13 中央
松倉 24－11 中山
陽南 19－17 高富
▼準決勝
境川 19－15 赤坂
松倉 17－14 陽南
▼決勝
松倉 17－16 境川

◎女子
▼1回戦
笠松 10－6 南濃
長森南 13－3 緑陽
陽南 6－5 東部
羽島 12－0 輪之内
那加 9－3 境川
桜丘 19－8 神戸
日新 6－4 中央
大垣南 24－3 鵜沼
興文 12－4 中山
蘇原 22－2 城山
稲羽 19－6 平田
▼2回戦
大垣西 11－10 笠松
日枝 21－2 長森南
羽島 12－6 陽南
那加 5－4 星和
桜丘 24－5 日新
松倉 21－6 大垣南
興文 20－13 蘇原
稲羽 10－6 東山
▼3回戦
大垣西 19－14 日枝
那加 14－10 羽島
桜丘 21－9 松倉
稲羽 15－9 興文
▼準決勝
大垣西 14－10 那加
桜丘 7－3 稲羽
▼決勝
大垣西 22－8 桜丘

岐阜県選手権〔高校の部〕

（5月1日・3日／岐阜県民体育館）

◎男子
▼1回戦
羽島北 17－8 岐山
岐阜工 18－10 中京商
大垣西 11－4 各務原東
長良 13－9 各務原
▼2回戦
大垣工 23－10 羽島北
可児 22－9 大垣北
海津 16－11 本巣
岐阜北 20－9 岐阜工
加納 17－11 大垣西
各務原西 21－4 池田
大垣東 22－11 岐阜南
長良 16－13 高山工
▼3回戦
大垣工 17－6 可児
岐阜北 14－9 海津
各務原西 12－10 加納
大垣東 13－10 長良
▼準決勝
大垣工 18－13 岐阜北
各務原西 16－13 大垣東
▼決勝
大垣工 20－11 各務原西

◎女子
▼1回戦
大垣西 17－8 岐山
長良 11－10 海津北
加納 16－11 大垣北
岐阜北 12－5 大垣東
瑞浪 10－7 各務原西
各務原 10－7 本巣
▼2回戦
羽島北 16－5 大垣西
加納 13－10 長良
瑞浪 10－6 岐阜北
海津 13－8 各務原
▼準決勝
加納 14－13 羽島北
海津 12－11 瑞浪
▼決勝
加納 20－17 海津

岐阜県選手権大会〔一般の部〕

（5月1日・3日／三洋電機他）

◎男子
▼1回戦
番屋 28－15 キャロットA
キャッチアップ 21－19 三洋電機
キャロットB 20－6 岐阜工業高専
笠松クラブ 20－18 朝日大学
▼2回戦
岐阜西クラブ 20－19 番屋
日本耐酸壜 28－17 キャッチアップ
パブハウス丸栄 18－14 キャロットB
大垣クラブ 20－13 笠松クラブ
▼準決勝
日本耐酸壜 21－18 岐阜西クラブ
大垣クラブ 29－17 パブハウス丸栄
▼決勝
日本耐酸壜 21－17 大垣クラブ

◎女子
▼決勝
岐阜教員 37－12 若竹

岐阜県高校総合大会

（日時／会場不明）

◎男子
▼予選トーナメント
〔Aブロック〕
各務原 24－14 中津
市岐阜商業 25－6 各務原
大垣西 21－20 大垣東
市岐阜商業 34－8 大垣西
〔Bブロック〕
岐阜北 22－14 大垣南
大垣工 22－14 岐阜北
岐阜東 19－10 岐山
岐阜東 19－14 大垣工
〔Cブロック〕
高山工 23－18 加納
県岐阜商業 24－15 高山工
岐阜西工業 19－6 可児
県岐阜商業 16－11 岐阜西工業
▼決勝リーグ
県岐阜商業 17－16 市岐阜商業
県岐阜商業 16－12 岐阜東
市岐阜商業 19－9 岐阜東

◎女子
▼予選トーナメント
〔aブロック〕
斐太 21－13 加納
養老女子商 16－10 斐太
羽島北 17－15 瑞浪
養老女子商 37－5 羽島北
〔bブロック〕
富田ヌ 18－7 本巣

高山 20－13 富田女
海津 34－12 大垣西
高山 31－13 海津

（Cブロック）

岐阜北 13－5 大垣東
県岐阜商業 23－8 岐阜北
中濃西 11－10 大垣北
県岐阜商業 35－6 中濃西

▼決勝リーグ

養老女子商 22－6 高山
養老女子商 29－11 県岐阜商業
高山 18－17 県岐阜商業

三重県中学校春季大会

（4月17日／四日市四郷高校）

◎男子

▼1回戦

菰野 9－7 亀山
白子 13－12 名張北
大安 30－9 西笹川
常磐 19－11 天栄
東員第二 21－9 笹川

▼2回戦

朝明 19－4 菰野
大安 18－9 白子
西朝明 18－5 常磐
東員第二 13－12 四日市南

▼準決勝

朝明 23－15 大安
西朝明 15－14 東員第二

▼決勝

朝明 15－10 西朝明

◎女子

▼1回戦

大木 26－2 柘植
羽津 12－6 亀山

▼2回戦

西笹川 9－8 名張北
大安 8－3 笹川
西朝明 17－3 桔梗が丘
朝明 21－2 大木
天栄 11－6 東員第二
菰野 10－6 白子
北勢 21－0 羽津
四日市南 10－3 阿山

▼3回戦

朝明 27－5 菰野
西笹川 10－9 大安
北勢 14－5 四日市南
西朝明 21－4 天栄

▼準決勝

朝明 28－3 西笹川
北勢 9－4 西朝明

▼決勝

朝明 17－5 北勢

三重県高校春季大会

（4月10、17日／四日市四郷高校）

◎男子

▼1回戦

四日市南 19－11 四日市四郷
四日市 19－6 上野工
桑名北 12－9 海星
高田 25－11 四日市中央工
上野 13－11 尾鷲
津東 16－13 四日市西
桑名西 20－14 津

▼2回戦

四日市工業 30－8 四日市南
桑名 21－6 津西
四日市 14－9 朝明
晩 20－1 桑名北
亀山 20－12 高田
川越 19－13 上野
津東 18－11 津工業
桑名工業 27－16 桑名西

▼3回戦

四日市工業 31－3 桑名
晩 18－14 四日市
亀山 29－18 川越
桑名工業 18－15 津東

▼準決勝

四日市工業 53－2 晩
桑名工 24－9 亀山

▼3位決定戦

亀山 27－11 晩

▼決勝

四日市工業 23－8 桑名工

◎女子

▼1回戦

名張西 36－5 四日市西
桑名 12－0 四日市南
津東 31－3 津
上野 12－0 桑名西

▼2回戦

晩 33－5 名張西
三重 18－8 桑名
四日市 14－12 津東
四日市商業 13－4 上野

▼準決勝

晩 36－2 三重
四日市商業 26－16 四日市

▼3位決定戦

四日市 18－12 三重

▼決勝

晩 22－7 四日市商業

三重県春季大会（一般の部）

（4月17日／四日市四郷高校）

◎男子

▼1回戦

西朝明クラブ 12－0 穴一クラブ
鵜ノ森クラブ 33－18 本田クラブB
尾鷲クラブ 12－0 四日市中央ク
西笹川クラブ 28－24 梅ノ木クラブ
三重教員 37－19 桑名西クラブ

▼2回戦

本田技研 50－9 西朝明クラブ
鵜ノ森クラブ 35－9 鈴鹿高専
西笹川クラブ 27－22 尾鷲クラブ
本田クラブ 35－27 三重教員

▼準決勝

本田技研 31－14 鵜ノ森クラブ
本田クラブ 41－18 西笹川クラブ

▼決勝

本田技研 33－28 本田クラブ

近畿

京都府高校春季大会

（4月17日～5月1日／乙訓高校、向陽高校他）

◎男子

▼1回戦

南八幡 23－4 平安
向陽 26－3 北稜
山城 25－9 洛星
洛北 32－0 京都学
乙訓 17－16 洛東
城南 24－16 桂
洛西 16－12 日吉丘
東宇治 17－7 洛水
両洋 22－15 東山

西乙訓 17-12 桃山
堀川 45-16 塔南
大谷 29-5 西宇治
嵯峨野 34-2 木津
京都西 24-8 八幡
田辺 44-9 城陽

▼2回戦
北嵯峨 17-9 南八幡
西乙訓 19-12 山城
大谷 25-7 乙訓
京都西 20-10 洛西
向陽 18-14 両洋
洛北 31-5 堀川
嵯峨野 19-15 城南
東宇治 25-9 田辺

▼3回戦
向陽 13-11 北嵯峨
大谷 15-13 嵯峨野
洛北 24-10 西乙訓
東宇治 19-15 京都西

▼準決勝
洛北 19-7 向陽
大谷 15-12 東宇治

▼3位決定戦
東宇治 14-13 向陽

▼決勝
洛北 14-11 大谷

◎女子

▼1回戦
西宇治 16-10 久御山
東稜 24-2 北稜
城南 14-7 日吉丘
府立商 12-6 光華
北嵯峨 36-1 西山
桃山 16-9 乙訓
明徳商 12-0 塔南
南八幡 11-10 山城
洛水 26-2 精華女

▼2回戦
洛北 33-7 西宇治
東稜 12-9 城南
府立商 25-7 西乙訓
東宇治 21-10 北嵯峨
京都女 16-13 桃山
明徳商 15-10 桂
南八幡 25-4 京都学
向陽 19-8 洛水

▼3回戦
洛北 21-10 東稜
東宇治 24-6 府立商
京都女 24-3 明徳商
向陽 11-9 南八幡

▼準決勝
洛北 23-10 東宇治
向陽 13-6 京都女

▼3位決定戦
東宇治 15-12 京都女

▼決勝
洛北 21-10 向陽

京都府高校総合体育大会

（5月21、22日／田辺高校）

◎男子《上級の部》

〔Aゾーン〕

▼1回戦
大谷 22-10 西乙訓
向陽 24-5 城陽
両洋 14-4 木津
八幡 13-8 西宇治

▼準決勝
大谷 12-9 向陽
八幡 13-2 両洋

▼決勝
大谷 18-10 八幡

〔Bゾーン〕

▼1回戦
桃山 26-8 宇治
田辺 17-12 北稜
山城 10-8 平安
北嵯峨 10-10 洛水

▼準決勝
桃山 11-7 田辺
北嵯峨 21-2 山城

〔Cゾーン〕

▼1回戦
東山 20-15 嵯峨野
南八幡 21-6 乙訓
洛北 23-9 桂
洛東 16-10 洛星

▼準決勝
南八幡 17-9 東山
洛北 30-3 洛東

▼決勝
洛北 19-11 南八幡

〔Dゾーン〕

▼1回戦
洛西 14-4 京都学
東宇治 38-2 洛陽工
城南 15-7 日吉丘
京都西 27-15 堀川

▼準決勝
東宇治 20-6 洛西
京都西 18-10 城南

▼決勝
東宇治 24-5 京都西

◎女子

〔Aゾーン〕

▼1回戦
精華 16-9 桂
東稜 20-5 京都商
北嵯峨 10-6 久御山

▼準決勝
洛北 38-0 精華
東稜 9-7 北嵯峨

▼決勝
洛北 18-11 東稜

〔Bゾーン〕

▼1回戦
山城 11-4 北稜
桃山 10-9 城南

▼準決勝
向陽 20-6 山城
桃山 25-1 京都学

▼決勝
向陽 13-5 桃山

〔Cゾーン〕

▼1回戦
洛水 16-9 乙訓
西宇治 9-7 府立商

▼準決勝
京都女 13-12 洛水
西宇治 22-1 西山

▼決勝
京都女 18-4 西宇治

〔Dゾーン〕

▼1回戦
日吉丘 8-6 南八幡
明徳商 18-2 洛東

▼準決勝
東宇治 15-3 日吉丘
明徳商 18-4 西乙訓

▼決勝
東宇治 21-7 明徳商



「幸福」が増えますように。

豊かさがもたらすもの。それはなによりも、ひとりひとりの「幸福」であるべきでしょう。心の幸福感があって初めて、豊かさは意味を持つのです。物質的・量的な価値観から、精神的・質的な価値観へ。私たち伊藤忠は、「豊かさを担う責任」という企業理念のもとにチャレンジを続け、きっとみなさんに本当の豊かさをお届けします。

豊かさを担う責任。

ITOCHU

伊藤忠商事株式会社

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三四三号
昭和四十年六月[illegible]日 平成六年六月二十六日 印刷
第三種郵便物認可 平成六年七月一日 発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一 編集兼
電話 代表 三四八一ー二三六一 発行人
振替 東京 六ー五八三四八番
中澤重夫
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）